

平成 27 年度光産業技術標準化会総会

平成27年度の光産業技術標準化会の総会を平成27年7月14日（火）、東京丸の内の銀行倶楽部にて、52名の参加者の下、開催した。

当協会専務理事小谷泰久の主催者挨拶の後、議長として、三菱電機株式会社 常務執行役 開発本部長の近藤賢二氏が選出され、近藤議長のもとで、2014（平成26）年度光産業技術標準化会事業報告および2015（平成27）年度事業計画の審議が行われ、異議なく承認された。



小谷泰久専務理事



会場風景



近藤賢二氏

休憩をはさみ、2件の講演をいただいた。

まず、ソニー株式会社 スタンダード&パートナーシップ部の江崎 正氏による、「効率的な規格開発に向けた挑戦～IEC/TC 100の場合～」の特別講演があった。江崎氏はAVマルチメディア分野を対象とするIEC/TC 100の国際幹事を務めておられ、極めて動きの速い技術分野に対応するためにIEC/TC 100で行われている、迅速な標準化を目指した数々の工夫について紹介された。IEC/TC 100の迅速かつ効率的な標準化への取り組みは、

① TC（Technical Committee）100の下にSC

（SubCommittee）に代わるTA（Technical Area）を組織化、② IEC/TC 100特別ルールからなるが、TC 100特別ルールはIEC標準ルールからの逸脱が問題視され、今もIEC中央事務局との駆け引きが続いているとのことで、他のTC/SCと共同戦線をほりたいとの呼びかけが行われた。

次に、来賓の経済産業省 産業技術環境局 国際電気標準課の和泉課長より、「国際標準化への取り組み強化の重要性」と題した講演がなされた。和泉課長からは、ISO/IEC全体の我が国の国際標準化への取り組み状況の説明の後、IEC/TC 76、TC 86、TC 100を含めたIECのTC/SC別参加国数・登録専門家数・これまでの規格発行数・現在の規格作業数のデータが紹介された。さらに、IECにおける新分野の国際標準化の動きと経済産業省主催により2014年5月にとりまとめられた「標準化官民戦略」との関連を述べ、「新市場創造型標準化制度」の活用案件が紹介された。最後にまとめとして、国際標準化活動に参加された和泉課長の個人



江崎 正氏



和泉 章氏

的な気づきと1906年のIEC設立会議から100年以上にわたって参画し続けている日本の国際標準化活動の歴史を紹介された。